住民のいのち支える保健師の仕事を
次世代に語り継ぎたい

大阪府職労　保健所支部
中村　真由美さん
（大阪府四條畷保健所　保健師）

新型インフルエンザ　感染防止をしっかりと

保健師として働いて35年のベテラン。「でも新型インフルエンザでは、初めて経験することもありました」。海外からのニュースを見て「日本に来るのは時間の問題。5月の連休明けが恐い」と直感。予想どおり大阪は一時パニック状態になりました。大阪府の保健所に設置した「発熱相談センター」にかかった電話はピーク時に1日5665件。累計は3万5千件を超えました。保健所の通常業務に支障をきたす程で、残業をしたり、土日も出勤体制に。電話で相手の症状を聞いて容態を判断し、感染の疑いがあると判断すれば、直ちに発熱外来のある病院と連絡をとり、本人とつなぎます。連休前は「渡航歴があるかどうか」、連休後は「感染地域に出かけていないかどうか」と、判断する基準も日々変わりました。「日本は外国と比べても短期間で感染が広がっています。検疫の方は、よくがんばってくださっていますが、検疫をすり抜けて感染が広がってしまったように思います」。1980年には支所を含め29カ所あった府の保健所は、現在14カ所に。保健師も欠員のままです。

「秋から再発するおそれがあるので、体制をしっかりしなければ」

「いい仕事がしたい」　労働組合が原動力に

学生時代に寝屋川の保健所で実習を体験し、保健師の生き生きした仕事ぶりに感銘して、この仕事を選びました。「労働組合の自治研活動などを通じて〝住民のためになるいい仕事がしたい〟と取り組んできたことが、原動力になっていたように思います」

約300人いる府の保健師のうち半数が50歳以上。「いまの若い保健師は、担当が短期間のうちに替わり、時間に追われて大変そう。早く仕事に自信がもてるようになってほしいです。私たちが保健師としてやってきた仕事を、次世代に語り継ぎたい」と、府の保健師OBと現役の保健師が、自らの仕事の体験を綴った「保健師ものがたり」を出版しました。住民の健康、子育て、家族のことなど、あらゆる困りごとに真剣に向き合って実践してきた保健師の心意気がそれぞれの体験談に込められています。中村さんも、難病患者との出会いの経験を綴っています。

「〝歴史を学ぼう、語り継ごう、若い世代に〟を合い言葉に、この本を広げたいです」

大阪府保健所の保健師活動を語り継ぐ会・編
「保健師ものがたり」

せせらぎ出版より定価1500円で販売

集まった！学んだ！
自治労連結成20周年企画　おきプロ（沖縄プロジェクト）
大阪から132人が参加
1200人の青年パワー

自治労連結成20周年企画「おきプロ」（沖縄プロジェクト）が6月12日から14日まで開催され、全国から青年1200人が結集。大阪からも132人が参加し、ダイビング、戦跡・米軍基地めぐり、カヌー、マングローブ、水族館見学、離島ツアーを満喫。豪雨もありましたが、全国の仲間とも交流を深め、沖縄の歴史や文化、環境を学びました。

おおさか自治体の仲間
発行：大阪自治労連（大阪自治体労働組合総連合）
〒530－0041　大阪市北区天神橋１－13－15大阪グリーン会館４Ｆ　☎06－6354－7201　FAX06－6354－7206
E-mail:mado@osaka-jichiroren.jp
URL:http://www.osaka-jichiroren.jp
発行人／谷　真琴　編集人／久保　貫裕
平成２年９月12日第３種郵便物認可
毎月15日発行（１部10円）組合員の購読料は組合費に含まれています。
2009年６月15日　No.245